

学校教育目標



須和田が丘

夢 に向かっていく生徒
命 を大切に作る生徒
絆 を互いに深め合う生徒

令和4年度
学校だより No. 25
令和4年10月4日

市川市立第二中学校
校長 石田 清彦

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

単元テストについて 4

他の学校では取り組んでいないという声もありました。

これからの教育の在り方や方向は大きく変わってきています。定期テストの廃止については、検討が行われている学校が他にもあると聞いています。

しかし、これまで当たり前だったことを見直すことは、並大抵の取組ではできません。大きなエネルギーが必要です。

特に実施に向けた計画や調整では、かなり難しい面があります。現在は基本的に月曜日を単元テストの日としていますが、単元テストを行った時間の授業はできなくなってしまいます。そこで、このことによる授業時数の不足が生じないように調整を行わなければならないのですが、教科担任制の中学校では、その調整が非常に難しいのです。ある程度システム化されてくれば、どこの学校でも取り組むことができると思いますが、現段階では難しいのが現状です。現在は、月曜日の時間割をほかの曜日の時間割よりも多く配置して、他の曜日と同等の授業数を確保するようにしていますが、細かい調整は常に必要となります。

また、教職員にとってもテストの作成・採点の機会が増え、業務量の面では負担が増えています。

つまり、教職員にとっても定期テストの方が「楽」だったのです。しかしそれでも新たな取組を進めるのは、子供たちに必要な資質・能力を身につけさせ、「生きる力」を育むために必要だからです。そしてその取組は、子供達のために頑張ろうとする二中教職員の前向きな姿勢に支えられているのです。

「評価」の取組については、そもそも「テストは何のためにするのか、何のためにあるのか」というところから出発をしなければなりません。そして、今まで当たり前だった方法が本当にもこれからも通用するのか、先の見えない未来を生きる子供たちに必要な資質・能力を身につけるには、本当にこれまでの方法で良いのか、ということ問い直していく必要があると考えています。なぜなら、子供たちが生きる未来は、私たち大人が経験してきた時代と、全く変わったものになるだろうと予測されているのですから。これらのことから、定期テストから単元テストへの移行は試行ではなく、これからの時代に合った評価方法として実施を進めているものです。元の形に戻すことは、学習に対するこれまでの、そして今の課題解決にはつながりません。

しかし実施していく中で、ご指摘のように、様々な問題は出てきます。今の形が「完全」とは考えていません。このため、今の取組をより良い形にしていくために、改善していくべきところは改善をしていきたいと考えています。保護者の皆様には、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

通知表と学習の記録について

通知表については、今年度より校長、担任、保護者の押印欄をなくしました。これは市全体の取組です。このことに合わせて、表紙と修了証書面を別にし、後期の始めに通知表を学校に戻していただくなくても良い形にしました。

前期の通知表は、表紙、見方、学習の記録、行動の記録をファイルに入れてお渡ししますので、ご家庭で保管いただき、後期にお渡しする通知表をファイルに加えていただければと思います。

また、「学校だより No.24」でお知らせしました通り、通知表をお渡しする前に「学習の記録」をお渡しいたします。「学習の記録」には、単元テストの点数のほか、通知表の基礎点となる評価が示されていますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

「学習の記録」によって、これからどこに力を入れて勉強をすればよいのかを、生徒一人一人が考える機会になればと考えています。

保護者の皆様には、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。